

TO BE!

東北文教大学で
見つける、叶える。
なりたい自分へ進行中。



Q 試験勉強で一番辛かったことは?どう乗り越えた?

私は地元の秋田県を受験したのですが、学内外の対策講座は山形県向けの内容が多く、情報収集に苦労しました。そこで、教職実践センターの方に個別に相談したり、ウェブ上で実際の受験者の体験談を調べたりしながら、対策を進めました。

Q おすすめの勉強法や教材は?

あれこれ手を出さず、過去問と学習テキストに絞って勉強しました。まず市販のテキストで基礎を固め、その後に過去問に取り組むことで、効率よく学習でき、モチベーションの維持にもつながりました。

Q その他に、試験対策で工夫したことは?

自宅より大学の方が集中できたため、朝から大学に通い、時間を決めて勉強していました。本番が近づくと、試験当日の時間割に合わせて問題を解くなど、生活リズムも意識して準備しました。当日の流れを事前にシミュレーションすることで、落ち着いて本番に臨めたと感じています。



実習先の子どもたちからのプレゼント

Real voice 01

人間科学部 子ども教育学科4年
佐藤 菜々さん
(秋田県立湯沢翔北高等学校 出身)



環境と時間を味方にした
受験ルーティンで夢を実現

Q 受験する自治体はどのようにして決めた?

当初は山形県を志望し、3年次受験(※)で合格していましたが、留学を経て、もっと視野を広げたいと思うように。川崎市の多様な魅力を感じ、「一人ひとりに合った教育」や、子どもの声に耳を傾ける姿勢に共感し、目指す教師像と重なると感じ、志望を変更しました。

Q 試験勉強で一番辛かったことは?どう乗り越えた?

周りに川崎市志望の友人はおらず、不安を感じることもあり。それでも、授業のない日も大学に通い、皆と学び合うことが大きな刺激に。教職実践センターによる学習会への参加も2次試験対策の支えになりました。

Q 「教員になりたい」という気持ちがより強くなった出来事は?

教育実習を終えてから1年後、同じ学校を訪れた際、授業を覚えていてくれた児童がいたことが大きな喜びでした。子どもたちに合った指導案を試行錯誤し、手応えを感じられた経験が励みとなり、教員として一人ひとりに寄り添いたいという思いが強まりました。



「授業が面白かった」という声で達成感に

Real voice 02

人間科学部 子ども教育学科4年
安達 里子さん
(山形市立商業高等学校 出身)



不安だった受験期を支えた
「同じ夢」を持つ仲間の存在

令和8年度小学校教員採用試験で、
本学から29名が現役合格を果たしました。
夢を叶えた先輩たちに、試験勉強の進め方や
モチベーションの保ち方、
教育実習で得た学びなどについてインタビュー。
後輩の皆さんが自分なりの一歩を踏み出す
きっかけとなるよう、リアルな声を
Q&A形式で紹介しします。

先生になる夢、叶えた先輩に聞く! Real voices

早めに踏み出した一歩で
反省を納得できる学びへ昇華



Q 試験勉強を始めたのはいつ頃?

大学3年生の12月ごろです。3年次受験(※)では準備期間が短く、本番直前まで焦って勉強していました。その反省から、4年次では周囲より早めに勉強に着手。余裕を持って、納得できるまで取り組みたいと考えました。

Q おすすめの勉強法や教材は?

一冊の問題集を繰り返し解く方法を実践しました。繰り返すことで、自分の苦手な分野が明確になります。並行して、苦手な単元を洗い出し、一つ一つに期限を決めて取り組むことで、計画的に学習を進められました。

Q 「教員になりたい」という気持ちがより強くなった出来事は?

教育実習で現場に立ってみると、大学での模擬授業とは異なり、子どもたちの実態を踏まえて授業を進める必要があると実感しました。そこで、手を動かす活動や体験を取り入れる工夫を重ねました。準備は大変でしたが、子どもたちに「分かりやすかった」と喜んでもらったことが自信につながりました。

Real voice 03

人間科学部 子ども教育学科4年
庄司 琴葉さん
(山形県立天童高等学校 出身)



何度も向き合った、心強い味方

落ち込みを力に変え
自分の「型」をつくった日々



Q 試験勉強で一番辛かったことは?どう乗り越えた?

最初に過去問を解き、正解率を数値化していったことで、自分に足りない部分
が明確になり、かなり落ち込んだ時期がありました。それでも「やるしかない」と
気持ちを切り替え、一つの過去問に集中。分からない箇所を洗い出し、理解で
きるまで丁寧につぶしていきました。

Q おすすめの勉強法や教材は?

参考書や過去問に加え、動画教材も活用しました。特に苦手だった歴史や、教
職・一般教養の法律分野では、YouTubeの解説動画が自分に合い、理解や整
理が進みました。耳で覚えることを意識し、繰り返し視聴することで学習の定着
につながりました。

Q その他に、試験対策で工夫したことは?

実技試験ではピアノ演奏を選び、課題曲の『朧月夜』に挑戦しました。市販の楽
譜ではなく、大学の先生からいただいたオリジナルの編曲譜で練習し、本番で
も演奏。多くの人が選曲だからこそ、印象に残る演奏を意識しました。

Real voice 04

人間科学部 子ども教育学科4年
菊地 果凜さん
(山形県立山形西高等学校 出身)



解く・聴くを繰り返し力に

大学生活には
どんな**出会い**
が待っている？



大学には、思いがけない出会いがたくさんあります。
人や経験、そして「こんな自分もいるんだ」という発見。
学生たちが心に残っている出会いと、
その先に続く今を紹介します。

※内容は取材時(2026年1月)のものです。



私の出会いは **OCメンバー**

これまで関わりのなかった
たくさんの仲間と
出会えた

鈴木 愛梨さん

OCで培った力

人間科学部 子ども教育学科/4年 鈴木 愛梨さん 山形県立酒田東高等学校 出身
オープンキャンパスに初めてスタッフとして参加した際、先輩方が企画し、高校生が楽しめる場を作り上げる姿に憧れました。活動を重ねる中で、人前で話す力が身についたと実感。以前は苦手でしたが、教育実習では落ち着いて話せる自分に気づきました。現在は「学校の宿題」をテーマに卒業論文に取り組み中。春からは小学校教員として、子ども一人ひとりの思いに向き合っていきたいです。

私の出会いは **同じ夢を持つ仲間**

国家試験に向けて
高め合える存在

樋渡 菜々子さん

出会いは、
一生の宝

人間科学部 人間関係学科/3年 樋渡 菜々子さん 新庄東高等学校 出身
オープンキャンパスで社会福祉士を目指す仲間に出会ったことが、大学生活の転機でした。一人暮らしは不安でしたが、気軽に話せる友人がそばにいて心が軽くなり、今では課題や実習、将来の悩みまで話し合える関係に。現在は「医療ソーシャルワーカーの視点」をテーマに課題研究にも取り組んでいます。将来は、知識を覚えるだけでなく、制度を調べ活用し、支援に生かせる力を身につけたいです。

私の出会いは **支え合える人**

人とつながることを
大事に思える今

三沢 真凜さん

そばにいてだけで
元気を
もらえる存在!!

短期大学部 子ども学科/2年 三沢 真凜さん 日本大学山形高等学校 出身
K-POPという共通の話題をきっかけに会話が増え、距離が縮まった友達があります。自分から話すことが苦手でしたが、踏み出すことの大切さを知り、大学での発表も「一緒ならできる」と思えるように。悩みを聞いてもらい、励まし合う中で、物事を前向きに捉えられるようになりました。卒業研究やテスト、レポートに追われる日々でも、休み時間や空きコマに話をしながら過ごす時間を大切にしています。

私の出会いは **進路支援センターの方々**

就活を一緒に歩み
支えてくれた

須藤 真優さん

頼ることは
自分を助けあげると

人間科学部 子ども教育学科/4年 須藤 真優さん 山形県立東桜学園高等学校 出身
就職活動では、進路支援センターの職員の方々が、エントリーシートの添削や面接練習、愚痴までも受け止めてくれました。第一志望に落ち、前向きになれなかった時期も「いつでも来ていい」と寄り添ってくれた存在。人を頼る大切さを知り、一般企業への就職が叶いました。今は不登校特例校をテーマに卒論の最終段階へ。外部のマーチングバンドにも参加し、コンサートに向け練習に励んでいます。

私の出会いは **心を開ける友達**

悩みを分かち合い
自然体でいられる

佐藤 千咲さん

ちよとの勇気から
大切な友達
♡に出会えた!♡

短期大学部 子ども学科/2年 佐藤 千咲さん 山形学院高等学校 出身
高校時代の人間関係から、大学では人と深く関わることを少し諦めていました。そんな私を変えたのが、入学前のオリエンテーションで出会った二人の友人です。同じ悩みを分かち合い、否定せずに話を聞いてくれる存在が、私の心を支えてくれました。現在は卒業研究であるオペレッタに向けて準備に励む日々。ピアノも音楽も初心者ですが、ゼミ長として仲間をまとめながら、学びを深めています。

私の出会いは **何でも話せる友達**

友達がいたら
いつも前向きになれた

須貝 あみさん

なんでも話せる
出会い!

人間科学部 人間関係学科/3年 須貝 あみさん 東海大学山形高等学校 出身
入学前のオリエンテーションで、偶然出席番号が連続し並んで座った3人。それが友達になるきっかけでした。学生自治会の活動では二人が自然と手伝ってくれ、誰かが落ち込めば前向きな言葉で励ましてくれる存在です。アルバイトではソフトマネージャーを任せられ、コミュニケーション力が磨かれました。学びやアルバイトへの挑戦意欲が広がったのは、この出会いがあったからだと思っています。

私の出会いは **児童文化部の仲間**

人形劇も音楽も
みんなで作り上げる

齋藤 詩彩さん

やりたいことに
全力で取り組む
出会えた!

人間科学部 子ども教育学科/4年 齋藤 詩彩さん 鶴岡高等学校 出身
部活動の仲間との時間が心に残っています。児童文化部では、人形劇のイベントで人形を何度も作り直し、演じ方を見直しながら作品を完成させました。子どもたちが夢中で楽しむ姿に「子どもに関わる仕事がしたい」という思いが強まりました。4月からは小学校教員に。誰も置いていかない授業づくりをテーマに卒論に取り組み、軽音楽部では大好きな音楽を通して仲間と熱中できる時間を過ごしています。

私の出会いは **力を与える音楽**

ライブに行く楽しみが
日々の原動力に

渡邊 杏樹さん

趣味で
出会おう!

人間科学部 人間関係学科/3年 渡邊 杏樹さん 山形県立上山明新館高等学校 出身
音楽との出会いが、私の行動力を大きく変えました。K-POPが好きで、音楽を聴くことも好きですが、一番心が動くのはバンドのライブです。音楽の話を通じて仲間が増え、ライブに行く楽しみが原動力に。音楽を励みに頑張れるようになりました。大学では先輩の卒論発表や論文要約の授業を参考に、卒論テーマを探しています。現在は、インターン先への訪問を通じて就職活動にも取り組んでいます。



人間関係学科 准教授
橋本 泰央

HASHIMOTO YASUHIRO

性格を表す「言葉」に着目し
パーソナリティの構造と
成長過程の変化を探る

パーソナリティの分類法
「Big Five」は言葉が源流

- ◎先生のご専門である「パーソナリティ心理学」とは、どんな学問ですか。
- ▲パーソナリティは、「性格」や「人格」と訳されます。私たちは日常の中で、「あの人は優しい」「まじめ」「おとなしい」といった言葉を自然に使っていますが、そもそも人の性格にはどのような側面があり、いくつくらいの側面に分けて考えられるのでしょうか。その構造を明らかにしようとするのが、この分野の大きなテーマの1つです。小説やアニメでも、登場人物の性格設定は物語の魅力を左右しますし、人と人の相性や関係性にも、性格は深く関わっています。そうしたパーソナリティを表す「言葉」に注目し、人の性格がどのような構造を持っているのかを研究しています。
- ◎性格を「言葉」から研究するとは、どのような方法なのでしょう。
- ▲言葉に注目して性格を捉える研究は「語彙研究」と呼ばれ、19世紀後半、イギリスの学者フランシス・ゴルトンが、人の性格を区別する重要な特徴は言葉に表

れると考えたことが出発点です。辞書にある性格語を集め、そのまともり方から性格構造を探ります。この流れの中で提唱されたのが、性格を外向性・協調性・勤勉性・神経症傾向・開放性の5次元で捉える「Big Five」モデルです。現在では30以上の言語で研究されていますが、近年は、言語によってはこの5次元だけでは捉えきれない可能性も指摘されています。私自身も、国語辞典を1ページずつめくりながら、性格を表す言葉を拾い上げてきました。使う辞書や、誰がどんな基準で集めるかによって、集まる語は少しずつ異なるため、「これが正解」と言えるものがあるわけではありません。ただ、そうした試行錯誤を重ねる中で、「おそらくこのあたりが、人の性格を捉える上で最もらしい構造なのだろう」という輪郭が、少しずつ見えてくるのです。

幼児期から思春期の性格
構造変化の解明を目指す

- ◎現在取り組まれている「子どもの性格を表現する言葉」の研究について教えて

ください。

▲成人を対象とした研究がひと区切りし、次のテーマを考えたとき、子どものパーソナリティ研究が少ないことに気づきました。特に、幼児期から思春期にかけて、性格の構造がどのように変化して成人の5次元に行きつくのかは、ほとんど分かっていません。私は、その「途中経過」を明らかにしたいと考えています。現在は、3歳・小学1年生・4年生・中学1年生の保護者の方々に、学生と手分けしてインタビューを行い「子どもの性格をどのような言葉で捉えているか」を調べています。子どもが小さいほど、一言で性格を表すのではなく、具体的な行動やエピソードとして語られる点が印象的です。この研究は、子どもそのものというより、子どもを見る私たち大人の視点を明らかにする試みで、引いては自分自身の理解にもつながります。研究がどのように社会に活かされるかは、正直まだ分かりません。ただ、自分が「知りたい」と思う問いに向き合い続けることが、研究の原動力だと考えています。誰かがこの研究を手に取り、活用してくれたなら、それ以上に幸せなことはありません。

教員プロフィール／東北文教大学 人間関係学部 人間関係学科 准教授。博士(文学)。早稲田大学大学院文学研究科修士課程・博士課程修了。専門分野はパーソナリティ心理学。現在は「学齢期前の子どものパーソナリティ特性の発達研究」に取り組んでいる。

NOTICE
BOARD

REPORT 朝活イベント「well活プロジェクト」を開催しました



2025年9月30日(火)の早朝に、朝活イベント「well活プロジェクト」を実施しました。この企画は学生および教職員のWell-being【よい(well)状態(being)】実現に向けた取り組みで、学生の学生生活の充実化を目的としています。内容は山形弁ラジオ体操と朝食無料提供の実施の2本立てです。当日は天気にも恵まれ、朝日を浴びながら、体を動かし朝ごはんをしっかり食べて、気持ちの良い1日のスタートを切った学生・教職員の姿が印象的でした。

REPORT 一般社団法人やさしい日本語普及連絡会 代表理事 吉開章先生の講義



2025年10月17日(金)、3コマ目の「マルチ言語プロジェクト」、4コマ目の「談話コミュニケーション論II」の時間に、吉開章先生をお招きして講義をしていただきました。吉開章先生は、外国人に情報を端的かつ的確に伝える「やさしい日本語」の普及のための活動を精力的にいらっしゃいます。

講義では、「やさしい日本語」の考え方や、「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションは、外国人だけでなく、障害をもった方や高齢者などにも通用することをお話してくださいました。

講義後半にはワークショップとして、単語の意味を簡単な3つの文で説明してみる「やさ日3文クッキング」にチャレンジしました。普段当たり前に使っている単語でも、それについて簡潔に3文で説明するとなると難しく、苦戦する姿もみられました。

日本以外の文化にも触れながら、多文化共生社会におけるコミュニケーションの取り方を考えるいい機会になりました。

REPORT 外国人留学生集会 「防災・交通安全対策確認」を行いました



2025年11月10日(月)、本学で学ぶ留学生を対象に防災や交通安全対策について理解を深める、外国人留学生集会を開催しました。

日本は地震や豪雨などの自然災害が多い国であり、これまで日本での災害を経験したことがない外国人留学生にとって、不安や戸惑いを感じる場面も多くあります。さらに、留学生活では自転車に乗る機会も多く、交通ルールの確認と安全意識の向上と、地震などの災害時の対応を身に付けるために実施しました。

交通安全対策では、山形県警察本部の交通部企画課による講習を行い、留学生たちは日本と母国での交通ルールの違いを確認しました。また地震が起きたときに冷静な判断で避難行動がとれるように防災に役立つビデオの視聴や、防災アプリをダウンロードし母国語での設定や使い方を学びました。



声にならない思いに
そっと寄り添い
人と社会をつなぐ

櫻井 恵美さん

SAKURAI MEGUMI

山形県男女共同参画センター相談員

山形県男女共同参画センターで相談員として従事し、皆さんの誰にも言えずに抱えてきた悩みや、言葉にならない思いに耳を傾けています。当センターは直接的な支援を行う機関ではないため、まずは寄り添って話を聴き、必要に応じて適切な支援先につながるご役割です。はじめは思うようにいかないことばかりで、電話での相談を終えるたびに反省を重ね、知識不足を痛感する日々でした。それでも関係機関の情報収集や研修を通して傾聴を学び、少しずつ仕事に活かせるようになってきたと感じています。

卒業後は民間企業の営業職として忙しい日々を送りましたが、コロナ禍をきっかけに立ち止まり、地域で民生委員として相談対応に携わる母の姿に心を動かされました。40代での転職には迷いもありましたが、「やりたいうことをやれば良い」という夫の言葉が後押しとなり、今の道を選びました。

山形女子短期大学(現東北文科大学短期大学部)へはスポーツ推薦で進学し、卓球部に入部。競技を辞めたあと悩んだとき、顧問の先生からの厳しい一言に奮起し、練習に励みました。短大2年のインカレ団体戦では「あなたなら大丈夫」と強豪校との大一番を任せられ、勝利をつかんだ経験は、今も私の支えです。幼児教育科で学ぶ中、発達心理学に興味を持ち、先生の勧めで大学に編入。心理学を学んだ経験が、約20年を経て今の仕事につながっているのですから、不思議な巡り合わせを感じます。

現在は相談業務に加え、広報誌の作成や取材も担当しています。また、男女共同参画の視点を取り入れた地域防災にも力を入れており、被災者に寄り添った支援をしたいという思いから、防災士の資格を取得しました。今日より明日、少しでも成長した自分でいられるよう、これからも一つ一つの声に真摯に向き合っていきたいと思えます。

私の HISTORY

プロフィール
1978年生まれ。酒田南高等学校出身。山形女子短期大学(現東北文科大学短期大学部)幼児教育科卒業。テレビ局や薬品メーカーでの営業職、社会福祉協議会での相談対応を経て、2021年より山形県男女共同参画センターに入職。

1年次

ねんりんピックでの活動を通し、子どもに向き合う仲間の姿に心を動かされる

2年次

インカレ団体戦での大一番を任せられ見事勝利！卓球競技の集大成となる経験を得る

ここがターニング Point!



顧問の先生の薦めで大学へ編入。心理学を学んだ経験が今に活きる

卒業後

テレビ局や薬品メーカーでの営業職を経験。多忙な生活の中で、コミュニケーション力を磨く

40代前半

社会福祉協議会での相談業務を経て、山形県男女共同参画センターへ入職。多様な悩み・思いに耳を傾ける

現在

防災士の資格を取得し、男女共同参画の視点を取り入れた地域防災にも力を入れる